

今回の体育部報では、今春ご退職される8名の体育部の先生方にお言葉をいただきました。

新時代の担い手として

岡崎市立城北中学校 中野渡 善樹

駆け出しのころ「体育部」と呼ばれるのを誇らしく感じていました。体育教師の役割として、最前線で奮闘する生徒指導、学校をリードする体育的行事の中心、子供の力を最大限に引き出す部活動指導などが期待されていました。何の実績も無い私ではありましたが、先輩方が築かれた伝統ある岡崎市の体育部の一員として扱ってもらえることをうれしく思っていました。また、先輩方からは「子供が一番楽しみにしているのは体育の授業だ。授業研究を怠るな。」ということもよく聞かされました。振り返れば、そうした先輩達に追いつけるように悪戦苦闘した日々でした。体育部として過ごせた教員生活は、私にとってとてもやりがいのある、充実したものでした。体育部の先輩方、支えてくださった皆さんには感謝しかありません。ところが今、体育教師の役割が大きく変わりつつあります。生徒指導では、長期欠席する子供への対応が最大の課題となっています。体育的行事は、働き方改革で縮小される方向にあります。部活動は学校から離れ、地域移行が進められようとしています。体育教師の役割として残るのは、体育の授業です。授業を通して生涯に渡ってスポーツに関わっていける子供を育成していくことです。しかし、課題は山積です。スポーツに関わる二極化の問題は、一向に解消されません。体力の向上も頭打ちです。コロナ禍で、こうした課題がより深刻さを増しています。スポーツへの関わり方として「する」「見る」「支える」「知る」があります。発達段階に応じて、それぞれの関わり方をどのように身に付けさせることができるのか。体育の授業が鍵を握ります。また以前、教科調査官からこんな話を聞いたことがあります。「学習指導要領の改訂が行われるとき、各教科・領域では、授業時間数を確保する熾烈な駆け引きがあるんです。体育の授業の成果が見られなければ、体育の授業時間数が減らされる可能性が出てきます。全国の体育の先生方、チーム体育で大きな成果の出る授業づくりをお願いします。」というものでした。体育の授業をより活性化させ、岡崎市からも成果を大いに発信していく必要があります。

時代の要請で学校の在り方は変わっていきます。ICTの活用によるこの数年の変革には、目を見張るばかりです。そうした中でも、学校教育において明るく活力ある子供の育成には、スポーツの力が不可欠です。健全な社会生活を送る上でも同様のことが言えます。スポーツの果たす役割は、今後ますます大きくなっていくでしょう。それを担うのは体育教師です。体育部が時代に合わせた新たな伝統を築き、これからも岡崎市の教育をリードして行ってほしいと願っています。

判断基準は「子供のためになるかならないか」

岡崎市立東海中学校 今枝 武司

38年間の教員生活を終えようとしています。これまで周りで支えていただいた先輩方・後輩のみなさん・同僚の先生方のお陰だと感謝しています。こういう機会をいただきましたが、考えてきたことややってきたことを記すことでお許しいただきたいと思います。

大切にしてきたことは、「そうすることは子供のためになるのか」ということでした。若い頃は教材研究に没頭しました。私はできないことが多く、体育が苦手だったから体育教師になりました。苦手で嫌だなという気持ちやできない原因がわかるから、それをうまく伝えられたら体育を好きになる子や苦手意識がなくなる子が増えるかもしれないと強く思って授業していました。子供たちが楽しく運動できると思って、20年くらい前からダブルダッチやアルティメットなどの教材を取り入れたりもしました。運動が楽しいと思ってくれる子を一人でも多く増やせたとしたら幸いです。

部活動指導にも明け暮れました。子供たちの良さを発揮させることを第一として、練習方法や作戦など常に考えていました。年間130以上の試合をし、朝から晩まで子供たちと一緒にいました。今考えると

とてもブラックだったと反省しています。女子ソフトボール部に携わることが多かったですが、クラブのはめ方もバットの持ち方も分からない子が、3年生の夏には活躍する姿は圧巻でした。教えるというより子供たちから教えてもらうことの方が多かった38年間でした。

岡崎の体育部をこれからも支えていただける先生方、子供たちの可能性は無限です。一回でも多くの感動を味わわせてやってほしいと思います。先生方の笑顔とバイタリティーで、岡崎の体育部がますます躍進することをお祈りいたします。今までありがとうございました。

迷ったら笑顔が生まれる方へ行け

岡崎市立夏山小学校 細井 太郎

忘れられない言葉があります。

長いこと教師をしているとすてきな言葉に出会います。

このタイトルの言葉もそうです。

「私は誰にも負けないものをもっています。それは人との出会いです。」

この言葉は教育実習生が残した言葉です。

「細井君、花のある場所に悪い心は育たない。」

これは、ある校長先生が私にくれた言葉です。

桃李（とうり）という言葉の意味も教えていただきました。

「温かい人柄さえあれば、自然と人は集まってくる。そんな人になりなさい。」

この言葉も、ある校長先生からいただきました。

言葉をいただければ、その言葉を発した、その方の人柄がよみがえります。

その方の生き方が背景にあるので言葉が心に突き刺さります。

今、60歳定年退職を迎え、ゴールテープが目の前にあらわれました。

自分自身の教師生活を振りかえれば幸せにあふれています。

多くの先輩先生方・同僚に感謝です。

そして、私と出会った、たくさんの教え子たちに感謝です。

現在の教育現場で岡崎市の教育を支えている教え子もたくさんいます。

陸上部、駅伝部で出会った教え子たちは、今でもランナーとして走り続けています。

ママになって、我が子連れて学校を訪れてくれる教え子もいます。

すべての教え子たちに感謝をしています。感謝しかありません。

すてきな教え子たちと出会えたことが私の財産です。

これからは自分の出会いに感謝をしながら

恩返しができる方法を考えたいと思います。

今までありがとうございました。



2023 初日の出
夏山学区 おおだの森

体育部として大切にしていきたいこと

岡崎市立北中学校 柴田 和美

新任から5年目。小学校勤務をしていた私は、中学校体育というよりも、部活動指導への強い気持ちがあり、満を持して中学校への異動希望を出しました。当時の校長には、「ハンドボール部のある学校へお願いします」と凶々しくも希望を伝え、教育委員会からは「何を贅沢なことを…」と校長を通じてお叱りを受けたものです。しかし希望は叶い、葵中へ異動させていただきました。しかもハンドボール部の主顧問をさせていただき、10年に渡って思う存分に指導することができました。そして、この3年はハンドボール部の部長として、少しは恩返しできたかなと思っています。

部活動の地域移行により、これから大きく中学校の部活動は変わっていきます。とりわけ体育部の先生方にとっては、教員を目指したきっかけの一つに部活動があったのではないのでしょうか。私たちの年代のように、やりたい放題の部活動の時代から、ここ数年は大きく様変わりし、今後さらに変わろうとしています。どんな形になっていくのかは、まだまだ不透明です。休日の部活動が全くできなくなってしまうと、部活動指導にやりがいを求めている先生方にとっては、失望感に苛まれることとなります。しかし、指導を希望する教員が兼職兼業で指導できるようになっていく可能性もあります。

部活動は課外活動ですが、子供たちにとって学校生活を充実させる大切な活動の一つであることは揺るぎないものです。それだけに体育部の先生方には、自らが経験してきた運動の楽しさを子供たちに伝え続けていただきたいと願わずにはられません。岡崎の子供たちをよろしくお願いします。

体育部の先生方には、37年間に渡ってたいへんお世話になりました。ありがとうございました。

お世話になりました。ありがとうございました。

岡崎市立竜南中学校 杉浦 明

岡崎の教員となり、たくさんの子供たち、保護者、地域の人々、そして先生と出会うことができ、その時々のお会いから、数えきれないほどの修行と勉強をさせていただきました。これまでに会ったみなさんの支えがあり、教えがあったおかげで、最後まで勤め上げることができました。中でも、体育部の先生方やバレーボール関係の先生には、たいへんお世話になりました。心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

これまでの数多の出会いの中で、その時々、私の生き方や考え方に大きく影響するようなたくさんの言葉に出会いました。その中でも、特に印象に残っている言葉は次の3つです。

一つ目は、たいへんお世話になった先輩が、いつも言っていたこんな言葉です。

『不平等に扱うことが、平等になる。』

二つ目は、15年ほど前に、全中の視察と家族旅行を兼ねて訪れた鳥取県にある天台宗の古刹、慈覚大師円仁ゆかりの三佛寺の掲示板に書かれていたこんな言葉です。

『あんたが悪いと指さした下の三本は自分を向いている。』

三つ目は、アドラー心理学を知り、関連する本を読む中で見つけたこんな言葉です。

『「やる気がなくなった」のではない。「やる気をなくす」という決断を自分でただけだ。』

「変わらない」のではない。「変わらない」という決断を自分でしているだけだ。』

最後になりましたが、これまでの一方ならぬ御厚情に心より感謝申し上げるとともに、岡崎の体育部の益々の発展と先生方の御健康と御活躍を心より御祈念申し上げます。

ありがとうございました！

岡崎市立矢作西小学校 野村 博紀

いよいよ、区切りを迎えます。これまで支えてくださった多くの先生方、子供たち、地域や保護者の方々、たいへんお世話になりました。とくに体育部の先生方にはひとかたならぬご愛顧を承り、感謝してもきれません。

私は恥ずかしながら、残すものもお伝えできるものもありません。思い起こせば、失敗の繰り返しでした。「ピンチはチャンス」という言葉もありますが、ピンチが深ければ、また長引けば、「ピンチはチャンス」などと思いつくとしてもそうはいきません。ただただ必死でした。しかし、自分でしか解決できないのに見通しが立たない、そんなピンチも手を差し伸べてくれる先輩方、そして温かい目で勇気づけてくれる後輩たち。私はいつどんなときも孤独を感じたことはありません。諦めずに本気でやっていると、だれかが手を差し伸べてくださったように思います。「来年の今頃はきっと笑ってられる」ことを信じて、試行錯誤しながら臨み、乗り越えられるかどうか分からない試練もたくさんの方々に応援してもらいながらここまで来ることができました。乗り越えられていたのかはわかりませんが、過ぎてみると、失敗は成長の糧になっていることは確かでした。

思い起こせば私の目に映るのは、たくさんの子供たち、先生方の顔ばかりです。今まで本当にありがとうございました。そして、4月からは再スタート。大好きなこの仕事から、まだまだ離れられません。挑戦は何歳から始めても遅くはないと信じ、新しい挑戦をするつもりで再スタートを切ります。今後ともご指導の程、宜しくお願いたします。

真面目にこつこつと

岡崎市立矢作西小学校 天野 行美

38年間の教員生活、長かったようでもあり、あっという間に過ぎてしまったようでもあります。この間に部活動指導や体育行事などを通し、たくさんの思い出ができました。特に、普段目立たない子が、こつこつと真面目に練習を重ね、技術とともに心も体も大きく成長し、活躍する姿を目の前にした時のことは、私の心に強く残っています。

小学校で陸上部を指導していた時のことです。5年生で不登校だった子を翌年の夏、陸上部の練習に勧誘しました。体力テストの結果が他の子に比べてよかったからです。彼は、練習に休まず参加をし、大会当日、男子100m走で3位、4×100mリレーでは、優勝することができました。レースが終わった後、本部にいた私のもとへリレーメンバー4人がやってきました。彼をはじめ、みんなの笑顔が達成感で輝いていました。また、水泳部の顧問をした時、スイミングに通った経験のない子が、ひたむきに練習に取り組み、3位に入賞したことがありました。結果を聞いて、驚きとともに、私も喜びでいっぱいになりました。

「努力は、裏切らない」と言いますが、努力しても結果を出せずに涙を流す子供の前に立った時は、もっと伝えられることがあったのではと反省ばかりしていました。

振り返ってみると、努力する子供たちの姿や心に励まされ、多くを学んできた日々だったと思います。そして、体育部の先生方からもたくさんの教えをいただいて、今があると思います。本当にお世話になりました。ありがとうございました。

大切にしてきたこと

岡崎市立岩津小学校 大島 裕子

私が梅園小で御一緒させていただいた、先輩の先生に教えていただいた言葉です。「体育行事は年中あるから、みんなに手伝ってもらわなくてはいけない。だから、体育以外のどんなことでも進んで手伝いなさい。そうすれば、みんなが助けてくれる。自分一人だけで仕事はできるものではない。」幸い、どの学校でも多くの方に支え

られ、何とか無事ここまで勤めることができました。

もう一つは、運動会です。本校では、コロナ禍の時さえ、名称や内容を変更しながらも運動会を実施することができました。私にとって、運動会は最も好きな行事であり、大切な指導の場でありました。規律ある練習は子供たちの体だけでなく、心まで強くしました。最近では、組み立て体操の大技を実施することができなくなりましたが、怪我をさせないように慎重に練習を進め、本番で成功した時の子供と職員と保護者が一体となって感動を味わうことができた瞬間を一生忘れないでしょう。

毎日の授業に加え、多くの行事や部活動指導、備品管理など、やりがいのある仕事が私たち教員は山のようにあります。振り返れば、私はそれが幸せだったことに気付くのですが、それも丈夫な体があったからです。どうか皆様は、まずは御自身のお体を大切に、これからの岡崎の教育のためにご尽力されることを願っています。これまで本当にありがとうございました。

常に私たちの目指すべき道を照らしていただきました。長い間ありがとうございました。